



神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク 会報第22号

KANAGAWA Rescue Support Bike Network News

2004年10月1日号, No.22

第22号の目次

- 1、神奈川県・藤沢市合同防災訓練報告(2004.9.5)
...太田隆行
- 2、新潟水害支援者の体験記(2004.7)
...杉野紀行、井上哲也、山田泰、夏賀英樹
- 3、埼玉RB主催合宿訓練報告
...矢代幸雄
- 4、講習会のすすめ
...矢代幸雄
- 5、北の大地ツーリング(2004.6)
...矢代幸雄
- 6、ラジオ FM BLUE SHONAN 出演(2004.8.27)
...辻谷 圭

編集後記

神奈川県、藤沢市合同防災訓練

2004.9.5

太田 隆行



訓練幹事・河内善徳 リーダー

ここ2年間神奈川RBでは8都県市合同防災訓練に参加してきましたが今年は神奈川県防災局より神奈川県、藤沢市合同防災訓練への参加を打診され下記の通り参加しました。

9月5日(日)8時、メンバーは藤沢市大鋸の主会場である大清水スポーツ広場に隣接する大清水高校に集合しました。



事前の打合せに基づき今回の神奈川県、藤沢市との折衝窓口としてリーダー役を請け負った河内さんによる朝礼の後、本部班(杉野)避難情報搬送班(1.後藤、宇田津 2.山田、井上 3.神林、太田)GIS情報搬送班(河内、夏賀)物資搬送班(矢代、梶、古賀、原田、永山)記録(辻谷)に分かれ各自が任務に付いた。板倉は藤沢災害救援ボ

ランティアネットワークとして情報部門を担当していた。

市内とはいえ拠点は6箇所を数え従来の全員同一行動とは違った訓練を行う事で得るものは大きかったと思います。有意義な訓練であったと総括します。各位の感想、反省点は多々有ったようですが下記に記します。

山田 泰

1,自分の役割についての感想:役割: かながわ女性センターでの避難情報を大清水ボラセンに届けること。

(1)不具合状況と改善策・他1)河内さんの指摘のように待つ場所が異なっていた為、出会うのが遅れた。反省及び改善策: 次回、避難者登録場所



を看板で明示する。われわれ避難者情報収集者はたまたまテントがあったためにそこに居るものと考えてしまった。現実の避難者がはばばらと避難所に来るはずとすれば次回は敷地内を巡回し避難者発見につとめたい。良かったこと:うまく行かなかったことが良かったと思う。人の歩き方などは千差万別。2)ボラセンから女性センターの避難者情報が来ていないと連絡が来た。15通の避難者情報をボラセンに届けた際、正規の受付でない人が受領してくれたため11時過ぎにまだ届いていないとのこととなった。

反省及び改善策: 届ける相手を確認し受領印をもらうこと。2,良かったこと 1)最も良かったことは神奈川RBがボランティアグループに組み込まれ4グループで複数地点に対して物だけでなく情報搬送を実施できたこと。2)神奈川RB全体の活動を把握する固定本部を運用できたこと。3,その他 1)神奈川RBの多種多様なバイクが会場のあのどろんこ道を無事走破出来たことは大したものです。2)他の団体の訓練



も大変興味がそそられるものがありました。出演するとなると殆ど他団体の様子が判りませんが今回会場走行に参加しなかった時間にいる見学できました。来年は会場係でも設置してはどうかと思いません。(参加者が少ない場合難しいとは思いますが)



神林 邦彦

防災訓練の感想

今回の防災訓練は昨年までの「八(七)都都市合同」とは別に開催された「神奈川県・藤沢市合同防災訓練」に参加と言う形になりました。当初の参加団体ミーティングにおきましては今までとは少々違ってが違い戸惑うこともありましたが外部との調整役を引き受けて頂いた河内氏を始め多くのメンバーの協力の下、今年も無事に訓練を終えることが出来ました。



訓練の中身(神奈川RBの任務)としては従来の救援物資搬送のみならずFSVnet(藤沢災害救援ボランティアネットワーク)の要請に応え2名を一組として4班を構成しバイクの機動力を活かした各避難所からの被災

者情報やビデオテープの搬送(伝達)も手掛け被災時における神奈川RB及びバイク利用の可能性や有用性を多にアピールすることが出来たと思います。又、RB本部を設営して個々の行動を本部が把握するという本番においても役に立つであろうと思われる訓練が出来ました。私個人の任務としては六会避難所とFSVnetとの連絡不十分により予定のタイムスケジュールとずれが生じた為、単独行動を余儀なくされた場面もありましたが被災時における混乱は予想される事でもあり臨機応変に対処出来たものと考えます。主会場におけるパレードは前日の大雨と大型車輛によりできた轍と泥濘により少し怖い思いもりましたがこれも良い訓練になったと思います。最後に神奈川RBも参加回数を重ねる度その行動も洗練されて行くものと感じた訓練でした。



夏賀英樹

今回の活動は訓練であり事前の下見をする余裕があったり、情報を入手することができており、大きな問題はなかったと考えています。特に外的要因ではありますが、天候が不順でなか

ったことですすでに90%成功であったと思えますし、事故、故障、任務放棄、任務未達成という事象もなかったことから、ほぼ100%の成功であったと考えています。逆に矛盾していますが、重大な失敗事例がないことが実際の活躍の場で必要となる貴重な教訓を失ってしまった感もあります。今後、自分たちで訓練を実施する場合には、幾つかの突発的事象を故意に加えてみる必要性も感じました。



太田隆行

反省:本部設置の意味をもっと考えておくべきでした。本部に流す情報の取捨選択が出来ず「なんでも言っとけば良いや」的な報告になってしまった感があります。しかしながら訓練自体

は小グループ単位での行動など実践的なものと思えました。ボランティア登録に始まり有事の際に想定される事が模擬体験できたことは幸いでした。



古賀陽一

当日のハムログから
藤沢訓練当日に神奈川RB本部の杉野さんとアマチュア無線による交信練習を行ったのでご報告します。

2004.09.05 天候 曇りときどき

雨

(時間) (自局交信場所) (相手) (相手の信号) (距離)

08:45 白旗神社付近移動中 7L1GX(杉野) 59 0.8km

10:15 藤沢市役所付近 7L1GX(杉野) 55 1.8km

(JR 高架下通過後)

[使用機器] 無線機本体 ハンディータイプ YAESU FT50 出力 2.5W, FM 430Mhz, アンテナ Maldol EX105F, 144/430Mhz Dual-Band



[交信状況] 江ノ島との往復の移動中に本部との交信を試みた。行き 白旗神社付近移動中に本部からのコールをキャッチ。本部に自局のコール名と信号の状況ならびに位置を通知した。境川河口付近から交信を

試みるも、当該周波数が他局(船舶上から?)の強い電波と混信していたため、この付近での交信を断念した。帰り 片瀬山入り口付近から、何度かコールしたが本部からの応答なし。藤沢市役所付近(JR 高架下通過後) もう一度本部をコールしたところ杉野さんと交信に成功。



当時、本部付近はヘリの離発着で騒音が大のことであった。本部の方は信号強度弱かったが明瞭に聞き取ることができた。当方の信号強度は不明。障害物の多い藤沢の市街地移動中に、わずか出力 2.5W のハンディー無線で大清水の会場にある神奈川RB本部と交信できて嬉しかったです。直線距離にして2Km弱。本部のロケーションがもっと良く、他局との混信がなければ、江ノ島からの交信にチャレンジしたりして、もっと興味深い結果が得られたかもしれません。それから、無線サポートチームとの交信も期待していたのですが、予定時刻までに開局に漕ぎつかなかったとのことでこれは残念。今回は、天候が雨天で

あったため無線機本体の防水処理に苦慮しました。自分の場合は、本体を小型のポーチに入れて雨に濡れないようやってみました。たぶん、よほどの豪雨でもない限りこれでやっていけるとおもわれます。反省する点は沢山ありますが、訓練を企画された方々に心から感謝を致します。7M4TBA 古賀陽一 以上です。

新潟水害支援活動報告 - 1

2004.7

山田 泰



7月13日新潟県で水害が発生、その約1週間後の7月21日夜、神奈川災害ボランティアネットワークが週末に水害片付け支援ボランティアを募集、バスを運行することになったとのメールが配信された。翌日仕事

のスケジュール調整後参加申し込みしたところからうじて定員に間に合った。90名の希望者があり、キャンセル待ちとなったことを後で聞いた。以下に7月23日(金)夜行日帰りで現地中之島町に行き、24日(土)土砂排出作業に従事した内容について報告する。私にとっては初めて経験で経験者の方々には新味のない報告内容かも知れないがその場合はご容赦いただきたい。私としては今後の自分自身及び神奈川R.Bの活動方法への大きな参考となる経験であったと感じています。以下感想を含め流れを解説します。

1. スケジュールは23日23:00横浜駅西口出発、移動および仮眠(観光バス定員60名満杯)24日03:00 越後川口SA着、車内および屋外にてブルーシートに仮眠。SA草場に2枚のブルーシートとタオルケット、毛布が用意され有志はここで仮眠。(晴天が幸い。このアイデアは良かった。)

各自朝食後 作業衣に着替え07:30出発 08:00 中之島町着ボランティアセンター 近くの宅地造成地に駐車後各自活動準備 6班を編成し中之島町ボランティアセンターに着いた。08:30 センターから徒歩約15分の場所の土砂除去作業を(3班約30名で)受け持つこと決定。各人作業道具を借用し現場へ移動。(現場は決壊箇所から3-4分の織物業のお宅。)8時過ぎ現場着 活動開始、12:00 昼食休憩、13:00活動再開、15:30撤収、16:00 ボランティアセンターに戻るバスに戻り着替え等、17:00 長岡へ移動、スーパー銭湯で入浴、18:00 出発、22:15 横浜西口着といった流れでした。

2. 現地での活動

被災地はどこ = バスはボランティアセンター近く区画整理済み造成地の草原(くさはら)に駐車した。ここにくるまで水害の家など無いし駐車した近辺にも普通に家が並んでおりどこに被災場所があるのかと思った。見回しても全くそれらしい風景がない。

班の編成: バスを降り各人携帯物品の確認後、田口リーダーの指示により60名を約10名ごとに6班を編成した。私は、1班永山班長(海老名災害ボランティア)に所属することになった。1人参加のためどこ

に入っても新しい友人が出来ると思いき近くの班に入った。お互いの確認のためゼッケンをつけた。

ここから中之島町ボランティアセンターに徒歩で向かう。道を挟んで4-5分の所に学校の体育館があり、そこは既にボランティアで混雑し始めていた。登録机、ニーズ張り出しボード、貸し出し資材、ボランティアに提供される資材や飲料またシャツ等が整然と区分されていた。また、古いトイレであるがきれいに使われていたのは良い印象を受けた。(ボラセンの担当者が気をつけているのだらうと感じた。)その後ボランティア登録に時間を要するとのことで事務局があらかじめ参加者名簿を提出していると田口リーダーから聞いていた。6人の班長がそれぞれの班のメンバーが氏名記載のポストイットを手に持ちニーズ調整に行く。待ち時間にセンター内を見る。見れば見るほど整然としており、ここまで立ち上げることは大変だっただろうと想像した。資材土嚢袋、スコップ、1輪車。個人では持参できない必要機材が十分備蓄されていた。また貸し出しゴム長靴、個人配布用の軍手、ゴム手袋、防塵マスク、飲料水が必要者に配られていた。資機材の準備補給体制についてはその豊富さに驚いた。いったいどの組織がこれらをそろえ補給しているのか?

そして作業場所決定。1班永山班長から決壊した堤防近くの民家の土砂除去作業に決定したことを聞く。1-3班まで、計30名が同じ場所に割り当てられた。私たちは土嚢袋、シャベル、ポリバケツ、デッキブラシなどの必要資材を係りの方からもらい、そして屋外に出て1輪車を借りそれらを載せて一段高い道路に押し上げて出る。現場への移動グループでまとまって移動を開始する。にわか編成でありしばらくすると自分の仲間顔がはっきり思い出せなくなる。しかしゼッケンが迷子防止に役立つ。このころから日差しが強くなる。汚れても良い服装、ジャンパーに長ズボン、手袋、帽子、そしてリュックサックの完全武装のため汗が吹き出してくる。暑い。現場は15分くらいだという。広い道路の左端を一輪車を押ししながら周囲の被災状況を見ようと目を凝らしながら進む。被災状態ですが、はじめ周囲は何でもない家屋が続く。100m、200m歩くと道路に泥が少しあるのがわかる。更に行くと木片や家財が置いてある。道路際の家では水道で物を洗っている。なんとも声のかけようがないその寂しい姿。凝視出来ない。あいさつをして良いものかどうか、自分の迷いに一瞬、嫌悪感を感じる。更に進むと道路端には水没した家財が多く並び道路は泥がたまり飛びはね要所に車両誘導の警備員が配置され懸命に交通整理をしている。家の壁に付いた泥水の痕跡、そしてかすかににおい始める初めてののにおい。進むにつれ被害がひどくなっていく。神社を過ぎ三叉路の交差点に出る。直進すると橋になるがここを左折した。2軒目が割り当て場所、到着した。これはひどい。家財、木材が山積み。中に入る。家の持ち主の話では1階が泥に埋まった。この1階の床上の泥はボランティアのおかげで排出してもらおうことが出来た。という。泥が1階の床上、それも人の背の高さまで積もってしまうとは想像できない。後から知ったがこの近くが決壊場所であった。そして作業。我々の最初の作業は通路、庭の土砂排出だった。2人一組で土嚢袋に泥を詰める。重い、詰めた土嚢を一輪車のくる平らな場所までの3mを運ぶのがだんだん大変になる。どうしても袋の大きさと詰めてしまう。しかし土嚢から絞れて出てくるほどの水を含む泥土は重い。重くて続かない!袋に半分入れよう!と声を出す。そして

においもひどい。防塵マスクでほこりだけは吸い込むまいと思うがし
ていれば息苦しいし、しな臭う。また、すぐのどが渇く。休み休み
やらないと長続きしない。自分の持参した水はすぐ飲み終わってしま
ったが、ボラセンが時々補給してくれるペットボトルの水とお茶は十分な
量があり助かったとともにありがたかった。これらの土嚢は1輪車で車
道まで出しさらに大きな袋に詰めた。我々の作業はここまででその後
はこれをショベルカーがダンプに積み込み運んでいった。もし庭まで
ショベルカーが入ればもっと早く進むのになと思う。でもここは倒れか
かった家の屋根を取り払わなければ重機は入れない。この作業場には、
長野県消防インストラクタ、またTEPCOマークのボランティアが一
緒に作業した。また、隣町から一人で来たという元気な若い女性が
いた。彼女は我々の動きが緩やかになったときもペースダウンせずに
頑張っていた。作業中は我々の一員と思っていたが我々のメンバー
との会話で被災地の隣町の人と判った。私は11時過ぎから頭と身体
が熱くなって来たため30分ごとに水道で頭を洗い冷やし体調を維持
しようとした。このころから若い人にも調子が悪い人が出てきた。仲間
が一生懸命やっても自分の調子がおかしい場合にすぐ休憩できる、
言い出せる雰囲気や体制をとっておくことは現場リーダーの重要な
役目と思う。熱心な人は、またベアを組んでいる人はなかなか言い
出しにくいと思う。体力には差があるから。くたびれてこのお宅の水道
で頭を冷やしていると交差点近くで千葉ナンバーの軽4輪で補給作業
中の千葉RB丸山さん、岡田さんと遭遇し驚きながら挨拶した。ボラン
ティアの安全確保や以上の早期把握のためボラセンと現場との連絡
や補給は大変に重要だ。さて昼食は近くの神社でとった。主催者が用
意してくれたおにぎり2個、たくあん少々、飲み物たっぷり(水、お茶、
ポカリスエット)。若い人はこれでは持たないと感じた。自分でも2時過
ぎに腹が減ってきてしまった。自分でも携帯食を用意しておくべきだ
ったと思う。しかし持っているとしたらみんなの前でそれを自分だけで食
べられるのか？。これは自分で気が付いておくべき事だった。(主催者
への苦情ではない)

食後、午後は引き続き午前中の作業と持ち主からの要請で家屋内、
床下土砂排除を実施。家屋の中はまず板をはがし(持ち主の知り合
いの方)それを排出。その後床下の泥を土嚢袋に入れて1輪車の入
れるところまで手持ち運搬。屋外に比し屋内は作業スペースが限定さ
れ人が投入できず時間がかかる作業だ。特に水切れが悪く重く手運
び距離も長く大変な作業だ。今回ピークで50名程度投入されたが、
これを家人や親戚の限られた人数で作業しても終わる物ではない。し
かも1階床上にあった背丈ほどの土砂も昨日までのボランティアの方
のおかげで取り除いてもらったとの丁寧な感謝のお話。ご主人と奥さ
んはヘリコプタで救助されたとのことだったが話している間は明るい
顔をされていた。午後、日差しも気温もますます強烈になり、徐々に
休憩時間が増えてきたが、自分のペースで休憩できたのは非常に良
かった。15:30頃片づけの指示が出た。

3. 感想

被災者の家族だけの作業ではどうにもならない家の中の土砂が
みんなの作業で少しずつ運び出され、退去時には割り当て部分がな
んとか出来てほっとした。しかし現実から四六時中逃げられない被災
者の方々を思えば(終わった！などという)迂闊な言葉を発せられな
いと気を遣った。

24日23時帰宅した。今までに無い疲労で、帰宅後も頭と身体が
熱く、翌日まで頭痛が続いた。(これが熱中症かと思った)

神奈川災害ボランティアネットの今回の企画はヒットだと思う。我々
の求めているのは行動だと言うことがバスにたまたま乗り合わせた皆
さんの言葉からもよくわかった。

4. 以下私論です。(RB的視点から)

現場近隣の正常地域に拠点を設置しそこから支援を行う体制を検討
すること。将来神奈川RBとして先遣隊を派遣できるとすれば現地情
報収集とともに現場近隣の安全で疲労回復が出来る場所(安価な宿
泊施設)を探索してはどうかと思う。このような拠点があれば参加希
望者の現地への不安の壁はかなり除去される。また、集団での参加
もしやすくなるだろう。(今回、神奈川RB井上さんは近隣のビジネス
ホテルに宿泊し活動したとのこと。)そして活動し始めたらその状況
報告を神奈川RBMLに報告。(インターネット環境を持っている場合)
またJRB.ne.jp 災害掲示板への報告はさらに大きな範囲で情報
共有を図れる。食事と休息については遠地から駆けつける場合、朝
食はSA、昼食はコンビニおにぎり、くたくたになって帰路に就くのはあ
まりに危険。また、炎天下の土砂除去作業などは野良仕事の様に日
中は休みを長く取り休息するなど検討の要がある。特にバイク参加の
場合注意を要する。現場を見て驚くことは、現場はひどいが少し離れ
た(2-3km)周辺地区は全く平常地域。発災後早く現場に入ること
で役立つことは多いのではないかと思った。その他中之島町の駐車
場にいた湘南ナンバーのバルカン800のライダーと話しましたが伊
勢原を朝7時出発、12時過ぎに到着、登録、作業したとのことでした。
そのほかに相模ナンバーバイクが2台駐車していた。今回のボラン
ティアバス、ボラセン、現場作業、その他でお会いしたすべての人た
ち、そして情報提供いただいた方々に感謝します。以上。

新潟水害支援活動報告 - 2

2004.7

井上 哲也



この記事では活動報告は特に行わず、今
回の支援活動を通じて得たノウハウや課
題を記してみたい。

1) 情報収集

災害が発生しボランティア活動をやる意
思が生まれたら、まず行うことは情報収集
となる。TVはもちろん、インターネットも役
に立つ。今回は三条市など自治体のHPで、早い時点でボラ関連情報
が発信された。これによりボランティア活動全体の状況がわかる。しか
し実際は自分の知りたい情報が綺麗にまとめられているはずも無く、
ネットでの情報収集はキリが無く、時間ばかりが流れ、焦る。現地で活
動している人間から電話で聞くのが手取り早い。この相手はやは
りRB関係者が適当だろう。自分が真っ先に被災地入りをするのでなけ
れば、地元または他県RB関係者が既に入っていることが多い。誰が
既に現地入りしているかといった情報や、またその人と面識が無い、と
いう場合は、神奈川RBの役員に聞けばアクセス可能。今回は埼玉RB
や千葉RBの人間から情報を得た。ここで確認すべき内容は色々ある

が、相手は当然忙しい状態で、通話も携帯電話であろうから簡潔であることが好ましい(電話すること自体を遠慮する必要はない)。活動内容については実際に現地入りしないとわからないことが多いのであまり聞いても意味は薄く、バイクの必要性、準備すべき器具、宿泊については聞いておくべきだろう。

2) 準備

準備は状況により大きく変わるだろうが、今回についていうと、まだ激しい豪雨が続きおり疲労の懸念があったことからクルマによる移動とした。宿泊はネットでホテルを予約した。ボランティア活動のために宿に宿泊することに抵抗があったが、仕事の都合から活動終了後に疲労を残すことは許されず、また慣れない力仕事をした状態で屋外や簡易宿泊施設に泊まることは疲労を生み二次災害につながるから判断した。なお、被災者の分を横取りしない様に、宿には充分に空きがあることを確認したことを付け加えておく。事前に得た情報から物資よりもマンパワーが必要ということだったため、準備する物品は自分のためのものを中心とした。具体的には、丈が長めかつ機動性のある長靴、通気性の良さそうなヘルメット、厚手の革手袋、多めの(乾いた)タオル、など。食料についてはカロリーメイト程度とした。一般に水害の場合は、被災地から少し離れると商店などは普通に営業しているためである。

3) 移動

7/18~19を活動に充てるため、17日の日中は私事と準備とし、移動は夜間とした。これについては反省点である。関越道を北上したが、やはり新潟県に入ったあたりから激しい豪雨に見舞われ、ワイパーは常に最速モードで、視界の悪化はひどく、ゆっくりと前に進むのが精一杯だった。視界以外にも、単独での運転だったため、夜と豪雨とで孤独感(恐怖感)が強まる。やはり、長距離移動時は複数人が望ましく、また可能ならば夜間は避けるべきである。RB内の他のメンバーと、日程を少しずらせば同行が可能というのであれば、同行できる様に努力が必要だろう。三条市に入っても雨は強いままだったため、無駄な運転は控え、すぐに宿に入った。

4) 初日の活動

初日の朝は、三条市隣りの燕市に設置された新潟RBの本部に向かい、既に前日から活動している神奈川RBの杉野氏と新潟RBメンバーから全体的な状況を聞いた。その結果三条市のボランティアセンターに向かうこととした。移動は自分のクルマで、現地RBメンバーに先導して頂いた。ボラセンでは、新潟RBの机が置かれており、そこでボラセン側からの依頼を受ける形だった。当日の活動内容は、三条市内の各保育所に被災者がいるかの情報収集、各避難所でボランティアニーズがあるかの聞き取り調査、安否確認などであった。ボラセン側のスタッフは福井のボラグループが主体となっていたが、ちょうど福井でも水害が発生し帰宅する必要があったため、RB関係のスタッフ業務を手伝った。ところで、RBがボランティア活動する際にその参加形態がどうなるか関心があったが、今回は新潟RBがボラセンに基本的に所属する形となり、ボラセン側から大きな仕事の単位でRBが引き受け、それをこなす流れとなっていた。細かい問題はあっても、両者の関係も概ね良好であり、ひとつの活動形態として参考になった。活動は夕方には終了となり、その日の活動について反省会が開かれた。これにより多くの関係者とコミュニケーションが取れることは、複数日活動する場合に

は有効である。

5) 二日目の活動

中之島町での一般ボランティアに参加した。朝ボラセンに行き、ボランティア登録を行った。ボラセン内には経験豊かなボランティア団体の運営により、数千人集まったボランティア希望者は肅々と各被災地に振り向けられた。この運営の手際の良さには驚嘆してしまうほどであり、阪神淡路震災以後の経験が充分に活かされていると感じた。ただし、仮にこの場へRBのマークを掲げて団体として参加をすれば、どのような参加形態が適当なのかわからない。今後の課題だろう。ボランティア登録の結果、RB6人・地元の高校生2人・地元の主婦2人で計10名のチームを組み、被災者宅で荷物の運び出し作業をすることとなった。被災者宅までは酷い泥道となつてしまい、また倒壊した家屋を撤去する自衛隊の重機がうなりを上げて活動しており、異様な光景。事故に注意が必要である。被災社宅では水没した荷物の運び出しを泥だらけで行ったが、以下の注意が必要であった。細菌を多く含むと思われる泥を避けるためのマスク着用、割れ物でケガをしないための手袋、水分補給、適切な(少し多めの)休憩、上下レインコートの着用、など。中でも休憩は多く必要。活動メンバーは全員体力があるとは限らない。またこのチームのリーダー役を担当したが、この立場ではリーダー業務に5割を裂く気持ちで作業すべきと思った。その意図の全ては二次災害の防止である。力仕事から離れることに抵抗感はあるが、異常な状況では普段なら気づかないことで事故が発生する。今回は怪我人こそ無かったものの、途中で気分を悪くする人が出てしまったことが反省点である。以上。

新潟水害支援活動報告 - 3

2004.7

杉野 紀行

活動概要報告

7/16 21:00 横浜発、7/17 07:00 燕交通公園(新潟RB本部着)で終日三条ボランティアセンター指示にて活動。活動内容は自閉症児送迎、頭部負傷者搬送、避難所状況確認等、7/18 終日新潟RBボランティアセンターにて活動。活動内容は各ボラからの情報収集、救援物資受け入れ選別等でした。19:00 今後の活動方針検討(埼玉、神奈川は中之島へ) 7/19 新潟RB本部集合後、中之島へ移動。午前 一般家庭ゴミ搬出作業、午後 柏崎へ移動し被災調査。柏崎豊町ボラセン大塚氏より応援不要との事。7/20 中之島にて一般ボラ登録して活動。終日 家屋前および側溝の泥を土嚢に詰める作業を行った。17:00 中之島作業終了(このとき兵庫RB? 台とお話)出発し 23:00 横浜自宅帰着しました。

7/20 は連休を終えたせいもあり、ボラセンは閑散としていた。連日1000人を超えていたボラが500名を切った様子。日赤のボランティアコーディネータも姿は見えず、被災者は多量の泥と戦いながら、疲労の色が隠せない。気温も上がり、泥が悪臭を放ち始める中、排水がうまくいかず被災者同士のいさかいが始まってきていた。また、ボラ期間中、皆様に頂いた暖かい励ましのせいでがんばれました、この場を借りてお礼申し上げます。

併せて、新潟RBのご尽力ですばらしいRB拠点準備されRB以外

にも話を聞きつけた近隣ライダーが多数参加されたこと、そして裏道、近道の案内にご協力頂きとても助かった事、三条市だけでなく、となりの燕市の方の個人的なご協力により炊き出し、お風呂の提供を受けたことも大いに感激しました。

新潟水害支援活動報告 - 4

2004.7

夏賀 英樹



新潟水害は自分にとって初めてのボランティア活動でした。当初は水害直後の活動を考えていましたが、仕事の都合からいくことができなくなってしまいました。しかし、被害が甚大であったためか2週間を過ぎた時

点でもボランティア活動が継続されていることを知り、ちょうど会社の夏休みが始まったこともあり7/31移動、8/1~8/2活動 8/3移動の日程で災害支援活動を行ってきました。当初は一般ボランティアの活動になるであろうことを想定した準備を行っていましたが、現地ボラセンでは二輪車の輸送業務が必要とされており新潟RBのメンバーと合同で活動を行いました。自分が到着した時点では輸送ニーズも減少が始まった時期で、大分余裕のある行動ができましたが、7/31までの時点では休憩なども出来る状態ではなかったようです。

帰路は新潟RBの方から魚沼スカイラインのコースを薦められたこともあり、一般道で帰郷しました。



ボランティア登録について
ボラセンには前日に連絡をとり人員が必要であることと、二輪車が必要であることの確認を行いました。しかしボランティアセンターは一本化された系統だった組織ではないようなので、ボ

ランティア登録する場合には地元のRBと連絡をとりアドバイスを受けるか同席してもらおうと感じました。

物資輸送 物資輸送のため、必要にして十分な積載容量を確保する必要があります。タンクバック、振り分けバック、キャリア、デイバッグ、ネット、ロープなどです。振り分けバッグは価格も安く重心が低下するうえ、後席が使用できるのでお勧めです。リヤボックスは防水性などには優れていますが、これを超える大きさのものは積載が困難になるので、必要に応じて簡単に脱着できるものがのぞましい。新潟では装備していきましが外したままでした。運んだ物資は飲料水、シャベル、ひしゃく、長パール(1.6m 30kg)、短パール、土嚢袋、バケツ、などです。長尺ものが多かったため積載には要領が必要でした。距離は片道4km以内、出勤回数は2日間で9回。待機中にはボラセンの雑務作業を行っていました。(自分の到着以前には高速道路を用いた輸送業務も発生したようです。)

医療救護 活動初日にはRBの待機場所の隣に赤十字の医療班が待機していましたが、二日目からは医療物資を残した状態で撤退されました。このため、ボランティアの方の治療を行うケースがありまし

た。傷病状態は屋外作業中の虫さされ、事務作業中の切創、ガムテープによるかぶれ、長時間のチェーンソー作業による筋肉痛などです。傷病者に被災者はなく、すべてボランティア活動者です。

宿泊場所 ボランティアのための宿泊場所が用意されていましたが、事前の情報収集に失敗したために利用できませんでした。ただし、環境は相当によくないようで、これらを利用しようとするときには十分な体力と少しでも快適に過ごすための工夫が絶対に必要です。支援の乗合バスに乗られた方の中には、屋根もない青空駐車場の地面で仮眠するはめになった人もいます。自分は25kmほど離れたビジネスホテルに宿泊したため、休息に関しては問題はなかったです。

単独行動について 都市部の災害では、単独行動とならざるを得ない可能性が高い。これは必要とされる二輪車が絶対的に不足すると考えられるためです。ただし、不慣れな地域である場合や任務内容、運転者の経験によっては複数行動が望ましい。安全第一を前提とした臨機応変が必要かと思えます。新潟では最初だけ同行していただき、後は単独で活動できました。

二人乗りについて 今回の新潟水害では実際に二人乗りの要請が二件ほどありました。自分も同乗者用ヘルメットを持参していきましたが、一件目はたまたま搬送物が多く同乗者用ヘルメットを下ろしていたため、またもう一件はボランティア所有の軽自動車が使われたため実際には発生しませんでした。このため、被災地域によっては二人乗りのニーズは確実に発生すると思われます。これに関しては、走りながらのスリ抜けはしないなどの安全に配慮した走行であれば問題ないと思えます。ただし、路面状態など状況をよく見極めるだけの経験を持ち、場合によっては一時的な降車や、中止をするだけの決断力も必要かと思えます。



ランドナビゲーション 新潟ではボラセンのマッチングと呼ばれていた部門から輸送伝票といっしょに輸送地点の近隣地図が添付されてきますが、土地感がないためにGPSとデジタル地図(電子手帳)の組み合わせ

が有益でした。ただし、電子機器などナビゲーションシステムは道に迷う確率が格段に減るため非常に有益ではありますが、悪環境に弱いことや電源の問題に気を配る必要があり欠点も多い。GPS単体であれば電池でも動作するうえ、防水性能をもつ機種も多いため悪環境には強いのですが、使いこなすのが難しいうえに必要とするレベルの地図などは表示できないためデジタル地図や経緯度の入った精密な地図が必要となります。このため本部からは住所だけでなく、目的地の座標を教示する仕組みがあればGPSだけの運用も可能となり運用効率が向上するものと思われます。新潟では小さな橋は落橋して迂回したことがありましたが、都市部の震災などでは目印となる建物などが倒壊したり、住居表示が破損している場合もありえると感じました。

電源 携帯電話やハンディライトなど電力を必要とする機器が必要となりますが、これらの電力確保について考慮しておく必要があります。最近ではパソコンのUSBから充電、動作できるものも多いので、

二輪車から12Vを引き出し、これをUSBの電源出力に変換するプラグを装備するとかなり使えます。

埼玉RB主催合宿訓練報告

2004.7.10~11

矢代 幸雄

11:00花園道の駅に集合



ここから訓練とシュミレーションの開始である。必要事項をボランティア登録用紙に記入した後、昼食道の駅隣のJA系売店、あげじゃが安くてうまい。長瀬方面には黒い雲が立ちこめて雷が鳴っている合羽を着込み1

2:00出発途中視界が確保できないほど降ってきたため幅の広い歩道に退避し雨足が弱まるのを待つことにする雨が弱くなったので再びボラセン本部として設定した日野沢山の家に向かう途中川沿いを走るのだが、かなりの濁流となっている。無事、日野沢山の家に到着ここはかつ



て皆野町立・立沢分校だった小学校校舎を宿泊施設として利用できる



場所である先程記入したボランティア登録用紙を提出登録を済ませ本部の指示をもらうここの指示とは全員での食料買い出し。指定された品物を指定された店で予算内で調達する指定した場所に物資が届いている

という設定でもある救援物資配布場所に設定したのは周辺大型スーパーであるチームは一組2名以上、私は千葉RB丸山氏と組むことになった。ボラセン本部に張り出してある地図に記載された場所を各自の地図により場所確認して各物資配布設定場所に向かう



物資調達場所の地図 調達場所を各自で確認ししばらくして各チームが物資を調達し続々とボラセン本部に戻ってきた次の訓練は炊き出しである今回はハイゼックスによる炊き出しを行うハイゼックスとはビニール袋に米と水を入れて鍋にわかしたお湯で米を炊く時に使うビニール袋のことである。

ハイゼックスにお米と水を入れた状態の際、米と一緒に入れる水さえ飲用可能であれば鍋の水は雨水でも川の水でも使用可能となります。鍋の水が沸騰してから30分間煮れば出来



上がり 皿に盛りつけ状態 レトルト牛丼をかける洗わずに済むように食器にはラップをかけます。同時に暖めたレトルト牛丼の素をご飯にかけて盛りつけ完了 体験を語る早田隊員阪神大震災を経験された早田さんから体験談などの話がありました。その後の懇親会でもう少しいろいろ話を聞こうと思ったのですが別な話で盛り上がりすぎてしまいその他の体験談は聞けませんでした。また次の機会に是非お聞きしたいと思います。



翌日は本部から指定された場所で指示書を読み指示内容に従うと言う訓練を行います。

全員で行動しますが指示書は4班分に分けてあります。秩父にも華蔵の滝がありましてここ

が第一の指示場所となります。駐車場にバイクを止めて滝壺に向かいます。滝壺にて指示書を読み上げます。「傷病者が居ます。何か役に立つものを持っていますか？」アンケートです。傷病者の状態については触れていないので自分たちの装備を確認します。私たちのチーム4名中レサコ1名、ファーストエイドキット1名でした。次の指示場所は円良田湖ここでは南側駐車場に本部、他の4チームが時間差で対岸の駐車場まで徒歩で移動中レピーターを使用しての通信実験を



行いました。レピーターとは携帯電話の中継局の様なものでありダイレクトには届かない通信距離局同士も通信可能にする中継局のことを指します。この実験終了後一部解散となり、その他のメンバーは道の駅花園まで戻り昼食を取って本解散となりました。今回の訓練を企画主催された埼玉RBメンバーと各訓練を企画担当された方々、ありがとうございました。

宴会も盛り上がった。



2輪安全運転講習会のすすめ

2004.6.26

矢代 幸雄



地区にもよりますが4輪の講習会はほとんどないのに2輪の講習会がいかに多く開催されているかご存じの方も多いでしょう。なぜだか判りますか？

2輪には仮免許という制度がありません。つまり、教習所を卒業したからと言って路上での仮免許経験も積んだ4輪と同様に運転技術が身に付いて

いるわけではありません。2輪免許というのは仮免許の状態です。公道を走る許可が与えられる事と同じなんです。しかし、4輪と違って助手席で補助ブレーキを踏んでくれる人は居ません。2輪において教習所で教えられることには限りがあります。私は年間40回ほど2輪講習会に参加しますが毎回新しい発見があります。

2輪4輪の操作の基本は「走る曲がる止まる」と言う話を聞いたことがあると思いますがこんな自動操縦の車はまだありません。本当は「走らせる、曲げる、止める」なんです。2輪にはこれに「こける」が加わります。厳密に言うと「こかす」でしょうか。走るのも曲がるのも転倒するのも本人の操作次第と言うことです。

さて、講習会は大きく分けて三つの訓練を行います。最初はブレーキングです。2輪の操作の中で一番むずかしく一番重要な訓練です。スピードを出すのはアクセルをひねれば出ますがブレーキは強くかければよいと言うものではありません。強くかけてタイヤがロックしてしまえば転倒につながります。実際法定速度60キロで公道を走ることはあると思いますが、60キロからの制動訓練とは言え私は、かなりの恐怖を感じます。制動訓練はつまらないと言う方がいますが実は一番大事なんです。1cmでも手前で止まれば事故を起こさずに済んだことになり。ふたつめは低速バランスです。走っている時と完全に止まっているときは安定しています。なぜ低速でバランスを取る練習が必要なのでしょう？2輪は速度が低いほど、ふらつきやすくなるからです。走り出したら必ず止まらなければなりません。止まるためには毎回不安定な速度領域を克服しなければなりません。この不安定な状態を少しでも減らす為に低速でバランスを取る練習が必要なのです。三つ目は、ある程度のスピードに乗った走り方の練習です。こちらは応用走行と呼ばれます。低速での基本である目線・ニアグリップ・ライン取りブレーキング・体重移動など教わったことを総合的に応用していく練習です。コースは教習所の様にあらかじめコース設定されている場合とパイロンによってコース設定を行う場合と両者複合のコース設定の場合があります。いずれにしても、コース自体は「くの字」「への字」「Uの字」「Sの字」「Zの字」などで構成されていて正確で迅速な操作が要求されます。と言っても、無理をしないで自分にあった速度で走ることが出来ますので初心者の方でも大丈夫です。応用走行は一筆書きでコースを走りますがひとりずつの場合、4～5人の場合10人くらいの場合と様々です。それぞれの特徴があります。ひとりずつ走る場合は前を走っている人が居ませんのでコースを確実に覚える必要があります。ただし、走るコースはパイロンなどで指図され判らなくなっていきます。複数で走る場合は前の人を走りを観察することが出来ます。上手い人であれば、お手本とすれば良いわけです。またこの際にミラーで後の人をどの程度接近しているのかを全く確認する余裕がない場合は操作可能速度領域を超えているためペースを落とすようにしましょう。出発地点に戻ってから後の人に前に出してもらって下さい。運転には「認知」「判断」「操作」の重要な要素がありますがここ最近ではこれに「予知」が加わっています。ここで言う「予知」とは「危険予知」のことです。これは昔から言われていた「～だろう」運転より「～かもしれない」運転を・・・と言うことを「認知」「判断」「操作」の中に要素として加えました。応用走行は瞬時の危険予知を養うにもとても有効な訓練です。加減速右折左折の頻繁な繰り返しでの走行とかつて友人に言われたことがあります。「競技をするわけ

ではない」と、その通りです。競技では加減速右折左折の頻繁な繰り返しでの走行を速く走するために練習します。安全運転のためには加減速右折左折の頻繁な繰り返しでの走行訓練で身に付いた瞬時の判断能力を普通で活かして下さい。ほら、今まで気が付かなかったことトラックの下から見える歩行者の足鼻先大きく出さないと左右の確認が出来ない路地出ようとしている車。車は見えるけど街路樹で運転手の顔が見えない、こっちは街路樹の死角内だ。角を曲がって前方に路地からの車、運転手は向こうを抜いている。こっちは確認した直後か？そのまま出てくるか？いろんな事がちらっと見えてきます。このちらっと見えることが事故抑止につながると考えます。このようなことから講習会に参加すれば、事故を起こす確率を減らすことは出来ます。万が一、事故にあっても被害をより少なくできると確信しています。

会員から

北の大地ツーリング報告

2004.8

矢代 幸雄

今回はB級グルメの旅、安くうまいことが条件、うまくて高いのはだめ、お店の人がフレンドリーだと更にポイント追加です。



8月8日スタートは洞爺湖畔わかさいも本舗チーズケーキふるま～、1個105円安くうまい、箱入りは割高です。一口ほおばっただけでお口の中はパラダイス！クリームチーズケーキ風。洞爺湖大和旅館RH泊。温泉付素泊まり1300円。いままで、中村さんひとりでやってきたが



今年から女将さんと二人三脚。例によって夜はロビーで宿泊者と宴会

夕方と早朝に温泉に入る。相変わらず湯船ひとりじめ。乾燥機無いが洗濯機無料、電子レンジ有り。去年まで女性のライダーズルームは1階だったが今年から上の階に設定したそうです。



8月9日、二風谷トマトジュース100円(商品名ニシパの恋人)目指した店が開店前だったので、がっかりして開いていたとなりの店に入ってみると置いてあった。一般的なトマトジュースより少しコクがあるかなと言う

感じでおいしい。帯広味はや、豚丼&ラーメン。ラーメンと豚丼両方を頼んじゃいました。すごくおいしかったです。少し値引きしてくれました。去年は、帯広通過が開店1時間くらい前だったので、寄るのをあきらめた事を話すと「そのくらいだったら寄ってく

れば、開けてあげるよ」初めての客なのに何という人情あふれるお



言葉……。おまけに「うちで取れた物だけ」と言ってお土産までくれました。

大正カニの家下見。旧国鉄広尾線大正駅跡地南側にある帯広市運営の01年度に作られた綺麗なログハウス風の建物です。中もとても綺麗ですが03年、酔っぱらって包丁振り回したアホが居たそうで04年から禁酒禁煙になり管理指導員がPM8時頃宿泊者の確認をしに来るようです。厚意で宿泊施設として開放していただいている

のに恩をあだで返すような行為、同じライダーとして残念でなりません。05年から有料になるそうです。

コッタロ湿原

釧網本線・塘路駅をしばらく北上して左折ダートを5キロほど走り木の建物のある駐車場に到着、建物裏の急な階段を登って更にスロープを登り切るとそこには言葉も出ないほどの広大な湿原が広がっているコッタロ湿原第一展望台だ。そこは人が入れない・入っちゃいけない場所なのだ感じた。来年はここからダートで更に先の第二・第三展望台に行ってみようと思う。



8月10日



釧路市朝市えびすや朝食。最近観光地化していてライダーに評判のよくない和商市場の隣の釧路朝市に入る。目的は一番奥の食堂の朝食だ。見た事もないような大きなホッケに惣菜が数種類。ほぼ2人前

である。なんとと言ってもおいしい。ここは和商の隣で見つけやすいはずなんだけど迷う人が多いらしい。花咲港橋本商店・花咲かに落石方面から向かうと花咲港へのバイパスが出来ていた。目的の橋本商店もすぐに見つかり早速、花咲かに食べる。この後エスカロップも食べるために小を注文する、でも結構でかいよ。しかも600円とは安い！食べ方を教えてもらいもくもくと食す。01年に食べたタラバもおいしかったが花咲もおいしい。とってもジューシー！目の前に両方出されたら花咲だね。

根室ニューモンブラン・エスカロップ。根室駅前ってもっと栄えているのかと思ったけどすごい閑散としていてニューモンブランもすぐに見つかった。いわゆるビルといえるような建物が無いんですね。店内はちょっと暗めの喫茶店風。エスカロップとはバターライスにとんかつのを

せてその上にデミグラスソースをかけたもの。地元の人は「エスカ」と



言っていた。バターライスは本当においしかったよ。別海ミルクハウス・キャラメルソフト、三国峠のキャラメルソフトクリームが食べたかったんだけど今回立ち寄り予定がなかったため牛乳の

名産地別海で見つけたときは一瞬通り過ぎたんだけどUターンして注文、やっぱり濃くてうまいよ。三国峠よりこっちのほうがいいかも。尾代沼漁港・北海しま海老。ミルクハウスの後、西春別の鉄道資料館に向かっていて雷が鳴り出し進行方向が暗くなってきたのでぬぬわKmで尾岱沼方面へ逃げた。ここでは北海しま海老を食せよ、と指令を受けており(誰からだ?)早速お勤めの大森商店へ。むき方を教えてもらい口の中に放り込むと潮の香りがホワ〜っと広がる。おいしいよおいしいよ。



8月11日

弟子屈・おめかめ食堂。醤油らーめんといももちを食べました。おいしいとの情報は確かでした。いもちなんて200円で4枚もありました。サービスでゆで卵もくれました

川湯温泉公衆浴場はこれぞ温泉という感じの硫黄の匂いのする公衆浴場。200円は安い、造りはぼろいがそれがまたいい。蛇口も勢いよく押しと折れそうなくらいぼろぼろ。ちなみに、蛇口のお湯は温泉で温めた水道水と書いてあった。これをここでは「真湯」と言うらしい。

8月12日

和琴半島みやざき商店いもだんご。出来上がったのが2本あったのでそれをくれるのかと思ったら注文してから焼いてくれた。焼きたては美味い美味い。

美幌、点香苑。美幌警察署のはす向かいです。157円と高めだけど

薄い皮の中には具がぎっしりアツアツのをハフハフしながら食べていると地元の人たちが豚まんを次々に注文していた。



8月13日

二宇布・トロロ王国。生まれて初めて本物の線路でトロロ気動車を

運転する。旧国鉄美幸(びこう)線の内、仁宇布(にうぶ)から高広の滝までの約5キロをエンジン付のトロロを自分で運転することが出来る日本で唯一の施設。エンジンは300cc、下がら空きなのでレールが車輪の限界までずれるのがよく見えて怖さを満喫できます。ひとりで



りでの乗車は軽いのであまりスピードを出すと脱線の可能性ありとの説明も怖さに拍車をかけているか？おもしろいのはこの線路は存在しないことになっている

線なので道路との交差ではトロッコのほうが一時的に停止することになっています。と言っても大きな道路との交差は全く見通しのいい遊歩道レベルですが…。5・6台が100m位間隔を置いて出発します。終点、高広で転車台に乗せ逆向きに転回させ行きとは順番が入れ替わった状態で帰ります。往復約10キロ1000円で50分くらい楽しめるのでまあまあCP高いと思いますよ。

和寒町・大勝食堂ラーメン、R40南下時、和寒町三笠交差点左折、踏切越えて200m左メニューは醤油ラーメンだけ、他にライスに大・中・小があるだけラーメンうまいよ、神奈川から来た甲斐があったと言ったらおばちゃん、喜んでくれたよ。たまたま寄ったんじゃなく、友達から進められてここを目指してきたんだよ。と言うと、顔くしゃくしゃにして最高の笑顔を見せてくれたよ。店を出るときの「気を付けてね」の一言が嬉しかったよ。

富良野お好み焼きまさや、愛媛出身の谷口さんが経営する鉄板焼き屋さん。バイクで北海道に来たとき気が付けば富良野で車検切れるんなバイトをしているうちに居着いてしまいついには富良野で店を構えてしまったらしい。ふわふわ男爵玉がふわふわして本当においしい。5cmもの厚さでどうやって中まで火が通るんだろう。



新富良野プリンス・ニングルテラス、昨年来てみたが今回はライトアップされた遊歩道とログハウス風雑貨屋を見てみたくて20時頃行ってみた。ナイタースキーゲレンデのような幻想的な感じでなかなかいいよ。本日こ

こで結婚式を挙げるカップルが居るみたいでスタッフいろいろと準備をしていた。

8月14日

清水ドライブイン・牛トロ井、R274日高から十勝平野に抜ける手前の左側にある。牛トロ井の情報を聞くまでは何の変哲もない単なるドライブインだったが突然評価が高くなる。温かご飯の上に半解凍の牛挽き肉をのせ、わさび醤油をかけて食べる。ご飯の温かさで溶けた牛脂が程良ご飯に染み込んで舌の上でとろけるように旨かった。+50円でそばが付くだけけど訳あって遠慮した。



糠平・食堂みはる豚丼、豚丼しかメニューにない、普通盛りが大盛りだけ。直前に情報が飛び込んできて頭の片隅に記憶が残っていたが糠平と聞いていなかった。最初寄るつもりはなかった。予定では糠平はB級

グルメの空白地帯だった。糠平観光マップの案内に何となく聞いたことがあるようなメニューが…「網焼き豚丼」あれ？糠平？みはる？そう



いえば、つぶれた日石GSのとなり有ったような気がするさっそく寄ってみた。ご主人はソファーで横になっていたがびっくりしたように飛び起きて「あっ！ごめん、今作るね。大盛りで

いい！普通盛りでもかなりの量だと聞いているので普通盛りにした。情報通り…うううう、うまい！！！！

8月15日

RHレストハウス・おしよる泊、夕飯が豪華、おっちゃんとの宴会も楽しい。朝食も豪華、これでほんとうに2380円??でいいのか?駐輪場への坂道は狭いため道路からは手伝える宿泊客が手助けして誘導や後押しをする。そんなことが自然に出来るというか何というかとても雰囲気の良い宿です。宿泊客が従業員のように何気なく手伝える雰囲気。来年も又来たいと本気で思いましたもん。

8月16日小樽港帰路へ



ラジオ FM BLUE SHONAN 出演

2004.8.27

辻谷 圭



去る8月27日、横須賀のコミュニティFMラジオFM BLUE SHONANに神奈川県RBを代表して出演させて頂きました。出演のきっかけは、

長年私のバイクを面倒みて下さっているガレージの常連さんが同局の番組パーソナリティを務めておられ、たまたま車検でピットインしていた私のZX-6Rに貼ってあるRBのロゴステッカーに目を留められたことにはじまります。同じバイク乗りとしても我々の活動に興味を持たれ、また、先の新潟水害では地域のラジオ局が様々な情報発信基地となって、住民の皆様のお役に立ったという事例からも、その二つを結びつけ、防災の日が近い日の番組で紹介したいとお話しを頂きました。FM BLUE SHONANのスタジオは、横須賀市の中心部、横須賀中央の大通りに面してガラス張りでごんまりと佇んでいます。

誰も私なんか注目しやしないのですが、当日はガラス向こうの通行人にちょっと緊張しながらも、番組に生出演いたしました。内容としては、番組の一コーナーである防災関連クイズの回答者として出演し、その合間にRBの創設経緯や活動内容などをお話ししたり、お互い見知った仲の者同士のバイク談義にと、当初10分程度と予定されていた出演時間を大幅にオーバーし、30分も喋ってきてしまいました。こうした経験はなかなかできるものではなく、とても楽しい一時を過ごすことができ、またコミュニティFMという新たなメディアを通じ、我々の

存在を知って頂くことができたのは価値のあることと思います。後日、様々な方面より「ラジオ聞いたよ!!」というメールを頂きました。その中にはすでにRBとお付き合い頂いている方もあれば、私の幼なじみやご近所さんなどもあり、三浦半島でもかなり限られた地域でしか受信されないIFMなのですが、それでもこんなに多くの方々の耳に入っているのだということに驚きました。

JR小海線甲斐大泉駅北約1.5km・ダイヤモンド八ヶ岳ホテル前
夏季(7・8月) 11:30~14:30、17:30~20:30(火・水定休、祝日は営業)上記以外の期間 11:30~14:30、17:00~20:00(火・水定休)
おにがわら」では新メニューを用意して皆様のお出でをお待ちしています。
念の為営業を確認の上お出かけください。

【その他のイベント】

神奈川県・藤沢市合同防災訓練予行演習 9/4

臨時ミーティング 9/3

運営ミーティング 8/1、9/19

ボランティアのための救護法研修会・7/20、8/16、9/21

・ ・ ! ! お知らせ ! ! ・ ・

神奈川RB携帯電話用サイト開設中

<http://k.excite.co.jp/hp/u/krpkrb/>

(i-mode/vodafone/EZwebの各形式対応)

編集後記

台風の当たり年で日本全土に大きな被害がもたらされました。新潟の水害では神奈川のメンバーはじめRBの仲間たちが復旧支援に走り回りました。稀に見る酷暑、激しい日差しの中、たいへんご苦労であったろうと思います。そして9月5日は藤沢市で行われた防災訓練。16名の方が参加されました。他のメンバーの体験で自らも知識を得てゆく事に至福を感じました。8月末には辻谷さんのラジオ出演も有ったり神奈川RBにとっても紙面が示す通りの盛りだくさんの夏でした。さて猛暑も一段落、ツーリングには最適なシーズンです。皆様も色々な所に出発しているでしょうね。先月の手塚さんに続き今月は矢代さんに多くの報告、寄稿を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。次号では他の皆様の投稿もお待ちしています。(お)

神奈川RB事務局

代表:坂本篤哉、事務局長:手塚則生

郵送先:〒221 0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2 24 2

かながわ県民活動サポートセンターレターケース No.81

Fax:045-312-1862(取次ぎ:レターケース No.81 宛て)

URL: <http://www2.airnet.ne.jp/krb/>

バイクによる災害時救援活動支援ボランティア

神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク会報(年4回発行)

発行者:神奈川RB会報担当 太田隆行

神奈川RB会報発行にあたりまして、お好み焼き「おにがわら」様のご支援を頂いております。みんなで行きましょう!



関西風・広島風 お好み焼き おにがわら」

店主:中島信義 山梨県北巨摩郡大泉村 Tel:0551-38-4030